

小学生時の学習姿勢が中学以降の学力を決める!!

新しいことを見聞きすることにワクワクする気持ちや、それまでできなかったことができた時の喜びは、低学年ほど強く持っているものです。ただ、小学校高学年になると、教科の好き嫌いがそのまま得意・苦手となったり、本格化する学習内容をしっかり理解・定着させることよりも課題を片付けることが目的となってしまうというように、お子様たちの学習に向かう姿勢に変化が見え始めます。そして、気難しい時期を迎える中学生ともなると、新しい中学校生活における様々な要因によって学習活動自体が左右されることも珍しくありません。

しかし、これまで数多くの小中学生の学習指導に携わってきた経験からすると、例え中学3年生であっても、未知な領域のを知る喜びやできなかった課題を克服する達成感はしっかり持っているものと思われます。本人にその気さえあれば、何年生であろうと「知る喜び」、「学ぶ楽しさ」は実感できるものです。むしろ問題となるのは、学習意欲のあり方が時期によって変化していくことで、徐々に個人差が広がっていくという現実にあります。外的要因(部活動との両立・先生との相性など)は時期的なものもあり本人にもなかなかコントロールが難しいですが、せめて内的要因(明確な目的意識・自分なりの学習スタイルなど)については、小学生の内に確かなものを身につけておくことが賢明です。

